

令和元年度の学校評価

- 1 建学の精神「不言実行 あてになる人間」の具現化
- 2 普通科とシステム科を併せ持つ、多様な選択肢のある教育
- 3 授業を大切にし、授業工夫を行うことで、「わかる授業」の展開と推進
- 4 一貫コースを中心とした高大連携教育
- 5 豊かな自然、恵まれた教育環境の中での自己実現
- 6 校則を守り、公共心や公正さを育む教育

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
渉外部	<ol style="list-style-type: none"> (1)一般入試の志願者を増やし、募集定員を確保する。 (2)女子生徒と普通科(特進・一貫)コースの志願者増を目指す。 (3)中部大学との「高大一貫教育」を含めて、学校のブランド力(評価)の向上を目指す。 (4)2科6コースの特徴を生かした「個性を生かす教育」を他部署と連携し具体的に発信する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)地元重点の丁寧な募集活動を行う。 (2)学校案内などの広報物充実のため、コンペを行い費用・内容面での充実を目指す。学校行事は他部署と連携し、円滑な運営を目指す。 (3)他私学との差別化としてあげた高大一貫教育により、上位層の獲得を目指す。 (4)新課程を見据えつつ、個性を生かす教育を行うことで多様なニーズに応えられるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)志願者数が増加し、一般入試目標の1000名も超えられた。特に名古屋地区の受験者増が著しい。 (2)見学会などにおける女子在校生の活動が女子志願者への良いアピールとなった。在校生の実行委員が主体的に活躍できる見学会の運営を続けていきたい。 (3)高大一貫教育への細かな問い合わせが増加した。 (4)中学校との連携を密にしつつ、ネット出願や基準の向上などの変革を続ける必要がある。
総務部	<ol style="list-style-type: none"> (1)避難訓練の充実 (2)朝読書の充実 (3)行事、式典の充実 	<ol style="list-style-type: none"> (1)平日午後の授業中の東南海トラフ地震を想定し、避難訓練を安全マニュアルに基づき実施する。 (2)学級文庫を廃止し、自ら本を準備させることを重点に活動する。 (3)入学式・新入生オリエンテーション、PTA総会、PTA中部大学見学会、卒業式、修学旅行を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)今年度、目標設定時間は達成できた。普段から避難経路や手順について理解し、直前打ち合わせがなくても目標時間を達成することが求められる。 (2)2学期、一高祭明けから10月末の第2回読書週間までの実施状況が良くなかった。担任の協力もあり、図書館の貸し出し指導をした生徒は2名であった。 (3)実施した行事においては大きな混乱もなく行うことができたが、校外団体と調整が必要な行事において役割の線引きが曖昧だったとの指摘があった。
教務部	<ol style="list-style-type: none"> (1)新学習指導要領の内容をふまえた生徒の自発的探究を促す教育課程への移行(準備) (2)ICT教育対応に向けての準備検討 (3)新校務システムへのスムーズな移行と効率的な利用の定着 	<ol style="list-style-type: none"> (1)各教科の新教育課程説明会に参加し、情報収集を積極的に行ってもらい、教育課程委員会等で情報交換を行った。総合的な学習・探究の時間を見直す。 (2)各教科「ESD推奨科目」のICT機器を活用しての授業の公開を行った。ICT機器を利用できる環境を整備し、積極的な利用を促す。 (3)情報部の協力のもと新公務システムへの移行は進んでいる。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)今年度についてはパソコン室・CAD室などを使用して運営、総合的な学習・探究の時間を月曜7限から水曜1限に変更して対応したが、年度進行によりパソコン室での運用は困難になるため、タブレットの個人購入とWi-Fi環境の整備を段階的に検討する必要がある。 (2)システム科・普通科特進一貫コースは1年生を中心にiPad、電子黒板等を利用した授業を行っているが、生徒にiPadを利用させて自発的探究を促す授業展開を行っている授業はまだ少ない。 (3)新校務システムの説明会を新任講師に対して情報部に実施してもらった。成績処理での入力ミスは教育課程委員会にて教科主任を通じて、教科会での注意を促した。
生徒指導部	<ol style="list-style-type: none"> (1)身だしなみ指導を徹底し、規律の向上に努める。 (2)登下校時のマナー向上と交通安全に努める。 (3)いじめ防止とSNS利用に関するモラルの向上を図る。 (4)携帯電話の取り扱いの徹底を図る。 (5)モラル向上のために各種講習を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)全校集会、学年集会を通して身だしなみの指導を徹底する。問題行動を未然に防ぐ施策を検討する。 (2)街頭指導並びに啓発活動により、交通事故防止、交通マナー向上に努める。 (3)問題行動発生時における初期対応の迅速化を図るため、昨年度より学校向けネットパトロール「スクールガーディアン」を導入し、関係者との連携をより一層強化する。いじめによる問題行動を防ぐため、迅速にかつ細やかな指導姿勢で臨む。 (4)校内での携帯電話取り扱いルールの徹底を行う。 (5)愛知警察署と連携し、講習内容を検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)毎日の校門指導や身だしなみ強化旬間の昼休みに、指導部の教員で校内を巡回しながら、身だしなみ指導や携帯電話の指導を行った。 (2)登下校時の巡回指導、通学バス利用生徒への指導、PTAの街頭指導のサポート、近隣からの苦情への対応、無事故無違反ラリーの達成、駐輪マナーの注意喚起、自転車安全指導の実施など、校内外で指導を実施した。 (3)5月9日(木)1限目、10月4日(金)朝のSTでいじめアンケートを実施した。 (4)4月25日(木)1、2限目 インターネット講習会を実施した。 (5)6月17日(月)短縮6限授業後に薬物乱用の講習を実施した。

特 活 部	<p>(1)生徒会執行部の活性化、全 員参加型の生徒会行事の 継承により、実施内容の質と 魅力を高める。</p> <p>(2)部活動を物心両面で支援 する。</p> <p>(3)教育相談を一層充実させ学 年・分掌との連携を図る。</p>	<p>(1)生徒会役員の公約実施への取り組み、80周年 に向けた企画検討・実施、夏季ボランティアの参 加者増加。</p> <p>(2)部活動表彰マニュアルの作成、推進費配分を 年度初めに実施、徴収額の見直し。</p> <p>(3)カウンセラーと学年会が連携した教育懇親会の 充実、各担任との密な連絡を実施。</p>	<p>(1)様々な生徒会活動を実施することができた。 一高祭など新しい活動の実施など精力的に活 動ができています。一部行事の日程が近接して いる問題の解決を図りたい。</p> <p>(2)生徒会新聞の発行や各部活への壮行会の実 施、一部部活への推進費の増額を達成した。</p> <p>(3)2回にわたり教育相談懇談会を実施。教員へ のアンケートも行った。</p>
情 報 部	<p>(1)校務システムの有効的な運 用方法の確立</p> <p>(2)ICT機器を活用した授業展 開の検討</p> <p>(3)ICT教育の具体的な取組み に関わる無線ネットワークシ ステムの検討・構築</p> <p>(4)本校ホームページの製作・ 運営・管理方法を検討。</p>	<p>(1)Googleの「G-Suite」を導入。校務連絡システムか らの移行と、各種サービスを外部から行えるよう にする。就職求人票閲覧をG-Suiteで行い、新任 教員にメソフィアの講習を行う。</p> <p>(2)普通科特進コースと機械電気システム科1年生 のiPad購入への対応をする。電子黒板を普通教 室と選択教室、他一部教室に設置する。ICT教 育導入校の視察を行う。</p> <p>(3)無線LANを14台設置する。情報端末管理のた め、使用端末の登録を行う。</p> <p>(4)情報担当者によりホームページの更新を行う。 G-SuiteやYouTubeを用いたホームページ公開 を行う。</p>	<p>(1)G-Suiteの導入により校務作業の効率向上の 可能性が見えた。メソフィアの不十分な機能も G-Suiteの活用によって校務の効率化を目指 す。</p> <p>(2)電子黒板は授業で日常的に使われるが、iPad を用いた授業はまだ手探り状態が多い。生徒 のiPadの盗難紛失は起きていないが画面割れ の故障数名発生しており、対処手段などの明 確化が必要である。</p> <p>(3)1日半程度インターネット接続不可となる事故 が発生した。滅多に起こることではないが、複 数回線によるインターネット接続設備の検討が 必要である。</p> <p>(4)動画配信などの新しい試みにより、分かりやす い情報発信が行えた。時間が掛かってしまう場 合が多いため、方法の検討が必要である。</p>
進 路 指 導 部	<p>(1)中部大学入学者学年45% の実現と、ミスマッチ・学力 不足による中途退学の防止</p> <p>(2)国立大学合格者10名の実 現</p> <p>(3)入試改革への準備の推進</p> <p>(4)生徒・担任・保護者の連携 強化、企業研究の徹底。一 次合格率90%以上を目指す。</p>	<p>(1)ガイダンス・模擬授業などの高大連携企画の充 実や、実力テストの実施、動向把握、3年生の 中部大学進学者向け進学補習の内容改善に 努める。</p> <p>(2)スタディサブリ利用による学力向上や指導の早 期化、各種テキストの活用。</p> <p>(3)共通テストへの対応や学びの基礎診断の導 入、そしてe-Portfolioへの対応と学力の三要素 の養成。</p> <p>(4)職業別進路ガイダンスの実施を検討し、会社見 学やインターンシップの拡大に努め、SPIテスト を活用する。</p>	<p>(1)中部大学への入学者数はこの三年間で150 名前後と安定しているが、中途退学者対策 が課題となっている。資格系学科での状況が 芳しくない。</p> <p>(2)現時点で目標値の達成はできていない。特 進コース以外の受験者の少なさが課題。</p> <p>(3)共通テストにおける騒動はあるが、依然とし て「思考力・判断力・表現力」の向上、「主体 性をもって協働して学ぶ態度」の養成は必須 であり、具体的な指導が求められる。</p> <p>(4)求人は依然として売り手市場であるが目標達 成には至らなかった。また、就職指導係は六 月から九月にかけて多忙を極め、クラス運営 に支障をきたしている。</p>
普 通 科	<p>(1)入試改革へ対応し、新カリ キュラムを見据えた指導の体制 を構築する。</p> <p>(2)中部大学・国公立大学の合 格者増と、生徒の学力保証 を目指す指導を行う。</p> <p>(3)コース毎に進路目標を早期 に設定し、豊かな人間関係 を養いつつ、きめ細やかな進 路指導につなげる。</p>	<p>(1)1年生の総合学習をESD委員会から提出され た、ESDに関連付けた探究型学習を軸とした運 営に変更する。ポートフォリオ蓄積を踏まえたホ ームルーム運営を心がける。</p> <p>(2)学習量調査と成績優秀者の公表は現状を維持 する。また、英検過去問演習などの対策を強化し て合格率向上につなげたい。さらに、自習室の 運営を再検討し、スタディサブリの活用を含め個 別指導と学習支援の体制を強化する。進路意識 向上のため、ホームルームの時間の使い方を工 夫する。</p> <p>(3)進路研究会を継続し、中部大学の理解及び連 携と進路指導方法の充実に努める。</p>	<p>(1)1・2年生共にESDを意識した探究活動を継続 して行った。校内だけで探究活動を行うのは 限界があり、各自で調べ学習をする必要があ る。課題やアンケート等でスタディサブリを利 用したが、期限を守らせることができなかつ た。</p> <p>(2)自習室の運営は教養部の活動と連動させる 取組を行うも定着には至らなかった。定期考 査前の自習室は需要があり、今後も継続す る。スタディサブリをはじめ、学びの基礎診 断・到達度テストを本校で有効に活用する方 法の確立が必要である。</p> <p>(3)3年生で進路研究会を行った。一貫・アドバ ンス・進学コースの生徒の国公立。上位大学受 験者を増加させるよう、進路指導方法を考え る必要がある。</p>
機 械 ・ 電 気 シ ス テ ム 科	<p>(1)資格・検定の合格者数を増 やすなど、生徒の専門的能 力の向上を図る。</p> <p>(2)地域貢献を視野に入れた対 外的な活動の拡充と実績の 向上を図る。</p> <p>(3)機械電気システム科として の特徴づくりと立案を図る。</p> <p>(4)専門課程を学ぶ意義を理解 させるとともに、進路意識の 高揚を図る。</p>	<p>(1)ジュニアマイスター顕彰の取得率増加や社会的 に高く評価されている試験の合格実績の向上。</p> <p>(2)各種競技会、地域イベントへの積極的参加を教 員や生徒に働きかける。</p> <p>(3)学校法人の行動計画、新規事業申請など、シス テム科の将来を視野に入れた計画を実施する。</p> <p>(4)教員の資質向上のための研修を行い、授業の 充実を図る。</p>	<p>(1)ジュニアマイスター顕彰取得者数は例年とほ ぼ同数。愛知県技術顕彰(3年でグランプリ該 当者)1年次からの「基礎学力」、「学ぶ力」の 向上のための指導を行う。</p> <p>(2)機械電気システム科の取組の明確化と更なる 評価を得るための取組が必要である。あいち 技能五輪・カウンタダウンボードの作成、AIT サイエンス大賞への応募</p> <p>(3)地域(特に日進市役所と本校周辺の企業な ど)との連携を深め、近隣の中学生に本校の 機械電気システム科を選んで頂けるよう、シス テム科の質の向上を目指す必要がある。</p> <p>(4)授業の充実のため、機械電気システム科の施 設の維持管理に必要なスキルの向上も必要で ある。</p>

<p>一年生</p>	<p>(1)高校生としての自覚を持たせる指導を学年全体として行う。 (2)学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る指導を行う。 (3)多くの経験を積ませる中で、将来の進路をしっかりと考える指導を行う。</p>	<p>(1)新入生オリエンテーションでルールを確認し、以後の学年集会やホームルームの中でモラルやマナーを指導し続け個々に考えさせることにより、一人一人に自覚を持たせていく。 (2)授業規律の確立と自学力の向上を目指す。各種検定受検とスタディサプリ・クラッシーの積極的な利用を促し、結果を出した生徒を賞賛することにより多くの生徒への波及を心掛ける。 (3)様々な活動の中で、心の成長だけでなく将来の進路選択に繋がるような成功体験ができるように指導・支援する。</p>	<p>(1)多くの生徒が自覚をもった生活ができていると判断しているが、残念ながらまだ集団の規律が守れない生徒も見うけられ根気よく指導していく必要がある。また、教員側が指示したことにはきちんと反応ができるが、自ら判断して節度ある行動ができる学年にしていきたい。 (2)学習規律は多くの生徒は守ることができているが、一部のできていない生徒が常習化しつつあり、それを苦に感じている生徒も少なからず存在している。学習ツールはもっと有効的な活用ができるように教員側が学ぶ必要がある。また、生徒の情報リテラシーの向上と、意欲の向上が課題である。 (3)探究学習を充実させていく中で生徒が考える指導を進めていきたい。ホームルーム指導もその時々コースやクラスの状態を踏まえたきめ細かい指導ができるように進めていきたい。</p>
<p>一二年生</p>	<p>(1)併設校希望者の増加と意識付けを図る。 (2)基礎学力を定着させ、進路目標を明確化する。 (3)身だしなみ・携帯電話の取り扱い指導の重点強化は継続し指導面の連携強化を図る。 (4)スタディサプリ、Classiを活用しポートフォリオや家庭学習、課外活動に積極的に取り組ませる。</p>	<p>(1)中部大学にオープンキャンパスへ行くように保護者会で積極的にアナウンスをする。アンケートをスタディサプリの活動メモに記録する。 (2)10月に普通科はスタディサプリ到達度テスト、システム科はClassiを用いた確認テストを行う。1月に普通科はスタディサプリ学びの活用力診断を行い、希望者に代々木ゼミナールの全国高2共通テスト模試を受験させる。また普通科、システム科ともに課題の配信を行うことにより、基礎学力の定着を図る。 (3)身だしなみ強化旬間に脱靴場で指導する。昼放課の時間だけでなく、授業中も校内を巡回し携帯、身だしなみ指導強化を図る。定期考査期間中も脱靴場、自転車置き場での下校指導も強化する。 (4)探究活動として各クラスで9月の一高祭に向けて準備し、グループ毎にダンボールボードに探究内容をまとめる。Classiを利用し文化祭の作品作りを行う。またポートフォリオの一環として ESD 活動、文化祭、課外活動、資格取得への取組を蓄積させ活動記録に保存させ、進路設計に活用するよう促す。</p>	<p>(1)担任団は新入試制度への対応と進学アドバンスコース生徒の増加による併設校推薦への対応、また進学コースと機械電気システム科の生徒の進路指導の不安を抱えている。 (2)各クラスの配信課題・調査の意識が高まった。 (3)人間関係で少し問題が起きたが、関連分掌と連携し改善した。 (4)生徒が高校生活において何をしてきたか記録させる習慣を付けさせた。進学、就職関係なく次の進路を考える上で重要であることをより理解させる。</p>
<p>三年生</p>	<p>(1)本校の模範学年としての自覚を持ちルールを守りモラルを高める行動を実践する。 (2)併設校推薦者150名、国公立合格者10名、大手企業内定者20名。 (3)身だしなみ・携帯電話の取り扱い指導の普及。 (4)問題行動ゼロを目指す。</p>	<p>(1)4月に登校指導と「命の尊さを学ぶ」をテーマに犯罪者遺族講演会を実施する。 (2)併設校希望者145名、国公立合格者4名、大手企業受験者31名(10000名以上の企業12名、2000名以上の企業19名) (3)4月・11月の身だしなみ強化旬間時に朝の登校指導に併せて身だしなみ指導を実施する。 (4)各学期始終業式後に学年集会を開き今後の生活の在り方についての講話を実施する。</p>	<p>(1)担任と関係分掌との連携で学校内での生活で大きく乱れることはなかった。 (2)他大学受験生に対しての環境整備は2学期以降改善した。併設校合格者対象の土曜講座は昨年度の反省から、講義に取り組む姿勢から改善し、学習意欲と学力の定着に重点を置き取り組み、手ごたえを感じる事ができた。 (3)身だしなみ指導に関しては日頃から試験や面接時と同じように心がけるよう指導はしているが、なかなか浸透しないのが現状。携帯電話の取り扱いについては授業時の使用、また特別問題行動につながるようなことはなかった。3年間を通じて携帯電話の取り扱いのガイドラインは定着したと考えている。 (4)2学期に数名の生徒が特別指導を受けた。校外での問題行動が原因で特別指導になり、社会ルールの遵守、モラルを高める指導を学校生活を通じて学ばせる必要があると感じた。</p>
<p>総合評価</p>	<p>建学の精神である「不言実行 あてになる人間」の教育理念のもと、「入れる学校」から「入りたい学校」の具現化を目指し教育実践を行っている。渉外部の活動により一般入試受験者が 1000 名を越え前年度比 119%を達成するなど、着実に「入りたい学校」への具現化が近づいてきている。</p> <p>学習指導において、今年度から情報部が主体となり ICT 教育が推進された。すべての普通教室や選択教室、一部の特別教室に電子黒板が導入され、1年生普通科特進コースと機械電気システム科の生徒に iPad を個人購入してもらうなど、近隣校と比較しても高水準の準備が整った。来年度は更なる ICT 教育の推進と共に、授業においていかに用意された準備を利用できるかが鍵となる。</p> <p>生徒指導の面について、生徒指導部が中心となってより良い学校生活を送るために努力が続けられている。登下校時の交通指導や身だしなみ指導に加え、昨今問題となっている SNS にまつわるトラブルやインターネットを介したトラブルへの対策として昨年度より「スクールガーディアン」によるインターネットパトロールが導入された。関係各所との連携を深め、教員が一体となって生徒指導に当たることが望まれる。</p> <p>進路指導について、中部大学への入学者数は 150 名前後で安定しているが、国公立大学への入学者数目標や就職の一次合格率目標の達成には至っていない。スタディサプリやクラッシーなどの活用、ICT 機器を活用した学習、各種ガイダンスの充実などをもって目標達成を目指してもらいたい。また、来年度より入試制度が大きな変革を迎えるため、進路指導部を中心に生徒の進路達成へ向けて万全な対応が求められる。</p> <p>上記の点において、普通科では新しい入試制度や新カリキュラムを見据えた新たな体制が整えられつつある。ESD を意識した探究活動が継続して行われ、ポートフォリオ蓄積を視野に入れたホームルーム活動や英語検定の積極的な受検など、生徒の目標を達成するために様々な活動が行われている。機会電気システム科でも資格・検定の合格者増に向けて様々な取組が実施されており、日</p>		

進市役所や本校周辺の企業との連携強化、周辺地域との係りも積極的に行われている。

充実した学校生活の実現に向けて、総務部や特活部、教務部などが精力的に取り組んだ。迫る震災を視野に据えた避難訓練では目標時間達成を実現した。また、教務部が主体となって ICT 機器を用いた ESD 推奨科目の授業公開が行われた。来年度からはより多くの生徒が iPad を所有することになる。情報部や生徒指導部、他分掌の協力のもとで円滑な学校生活の実現を達成したい。

ESD 活動においては、本年度のコロナウイルスの問題により ESD カンボジア研修が取りやめとなった。ESD 研究活動大賞発表会は例年通り行われ、各団体グループ個人がそれぞれの活動を分かりやすく発表していた。来年度へむけて更なる活動が期待される。